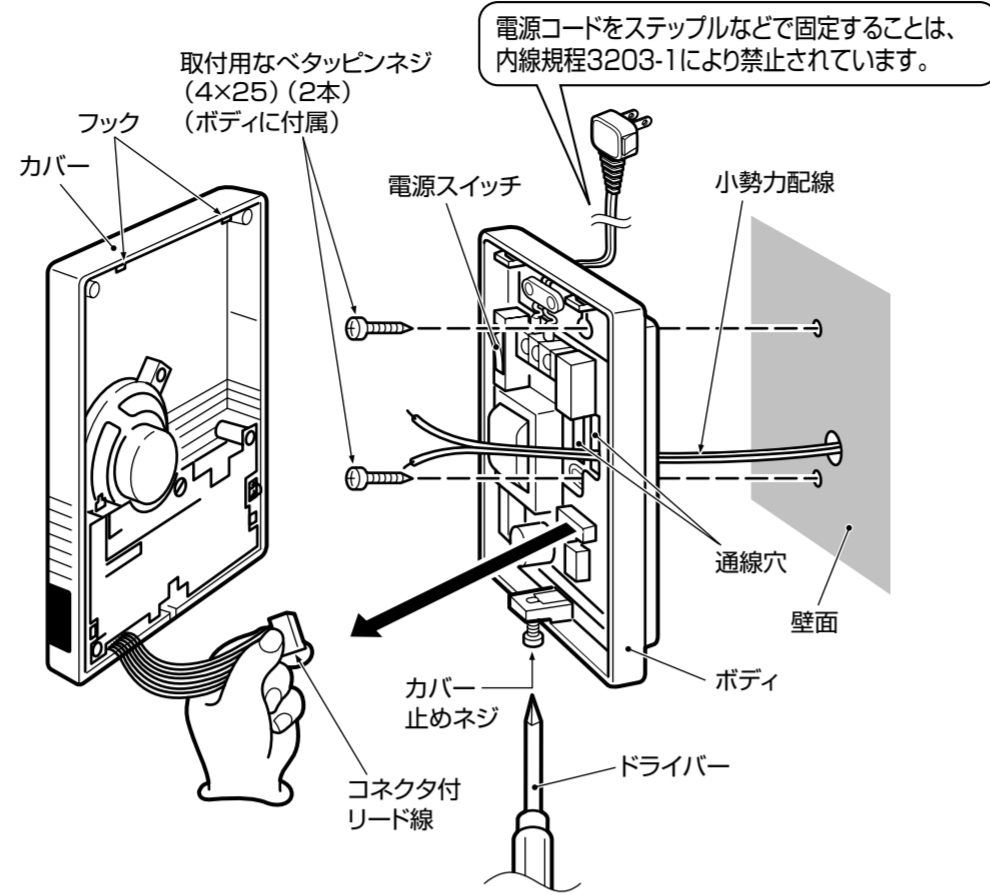


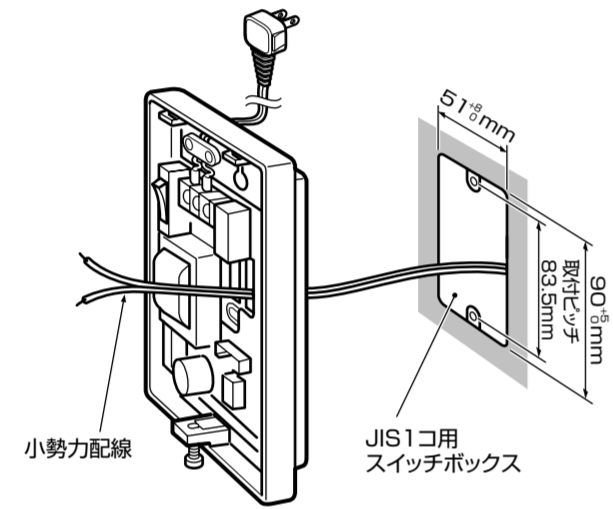
店番本体の取付方法

ボックスなし取付の場合

- 1.カバー止めネジをゆるめ、カバーを開ける。
- 2.コネクタ付リード線をはずす。
- 3.通線穴に電線を通してボディを付属の取付用なベタピンネジ(4×25)(2本)で壁面に固定する。
- 4.電源スイッチを「OFF」側にする。
- 5.結線する。(配線方法参照)
- 6.警報時間を設定する。(警報時間の設定方法参照)
- 7.カバーのコネクタ付リード線をボディのコネクタ受けに差し込む。
- 8.配線に間違いがないか確認のうえ、電源プラグをAC100Vコンセントへ差し込み、電源スイッチを「ON」側にする。
- 9.カバー上部のフックをボディに引っ掛け、カバーをカバー止めネジで固定する。

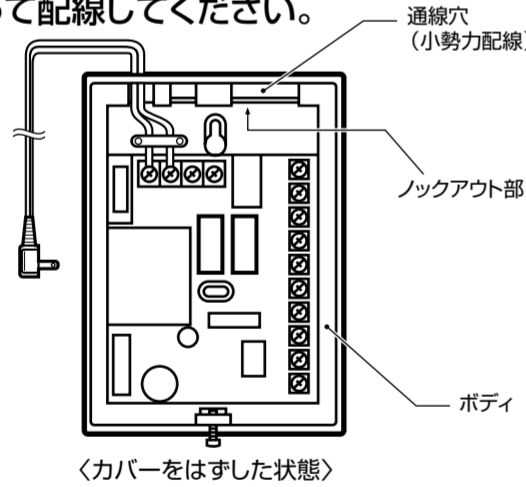


ボックス取付の場合



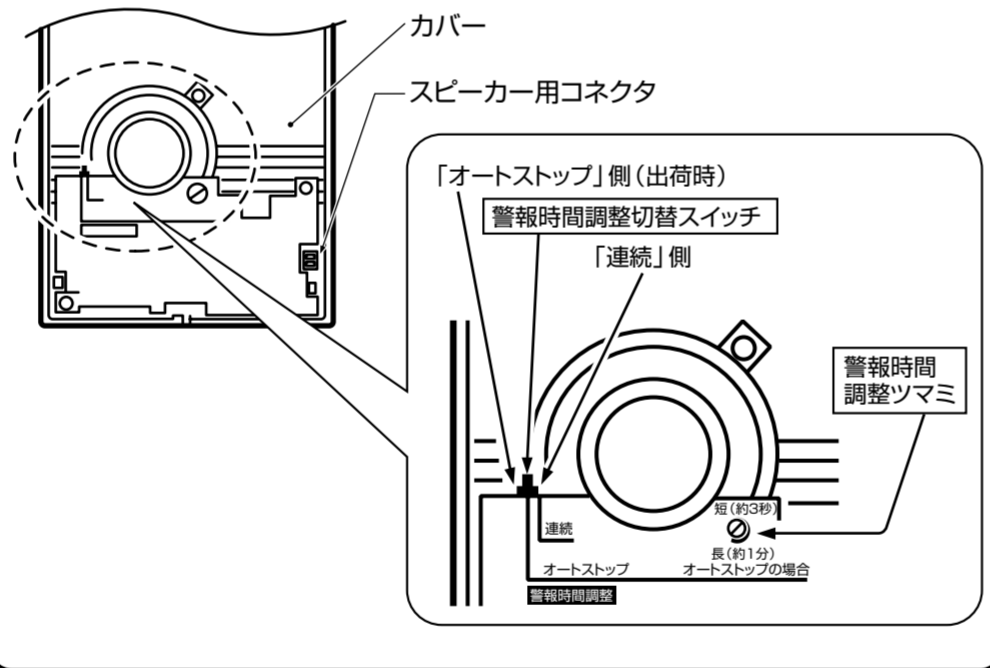
露出配線する場合

- 通線穴を使用してください。
- 配線方向に合わせてノックアウト部をニッパーなどで切り取って配線してください。



警報時間の設定方法・報知音、警報音の鳴動設定

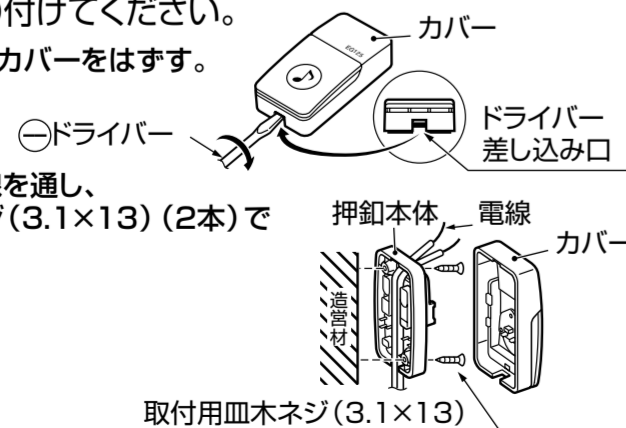
- 警報時間調整切替スイッチで警報モード時の警報時間の設定ができます。
「オートストップ」側…警報時間調整ツマミにより約3～60秒までの可変設定ができます。
「連続」側………連続して鳴動します。
- 店番本体の報知音、警報音を鳴動させない場合
スピーカー用コネクタを抜いてください。



押釦の取付方法

注 端子ネジ以外の内部金属部品にはドライバーなどが触れないように取り付けてください。

- 1.ドライバーでこじてカバーをはずす。
- 2.押釦本体裏面から電線を通し、付属の取付用皿木ネジ(3.1×13)(2本)で固定する。
- 3.結線する。(配線方法参照)
- 4.カバーをかぶせる。



施工後の動作確認方法

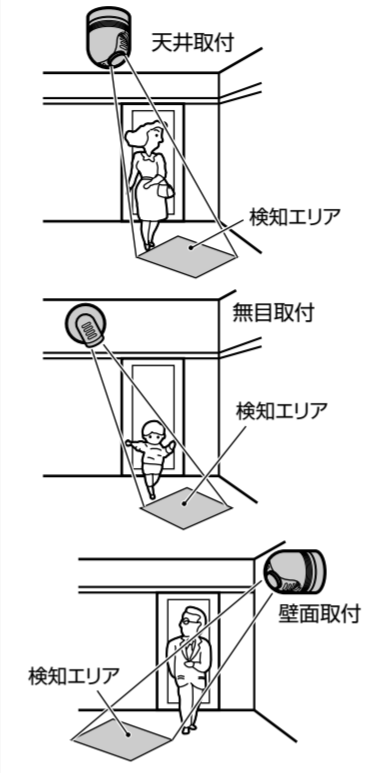
- 電源スイッチを入れる。
注 電源を入れてから、正常に検知できる状態になるまで約1分かかります。
- 検知エリア内のどこを通過しても、検知器の動作表示灯および店番本体、接続機器が正しく動作することを確認してください。
※来客報知用押ボタンが接続されている場合は、来客報知用押ボタンも押して確認してください。
- 必ず店番本体の報知・警報モードの設定をして動作の確認を行ってください。切モードでは検知しても店番本体は動作しません



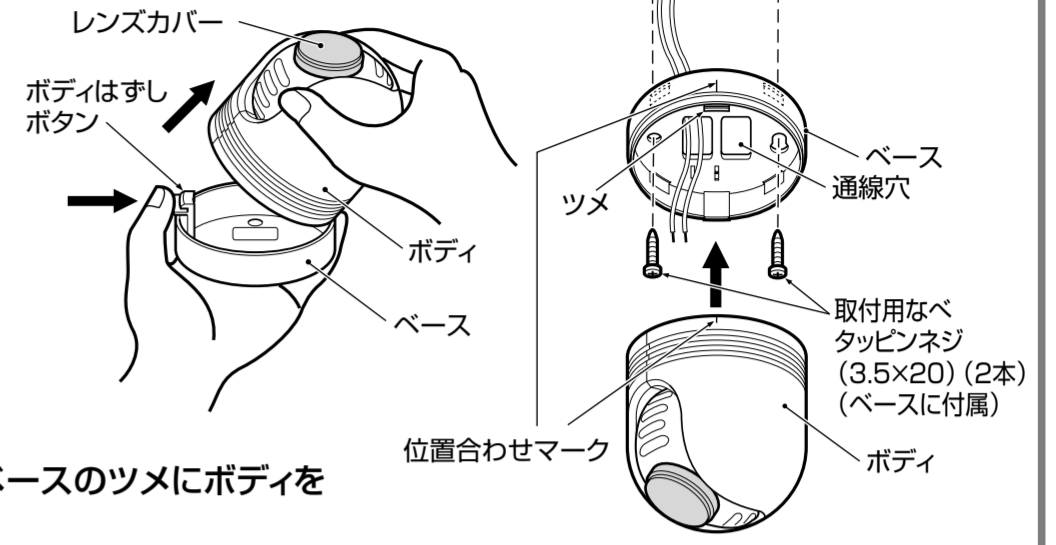
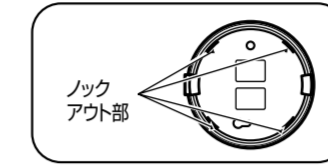
検知器の取付方法

取付位置

注 検知エリアを真下に向けた取り付けはできません。(検知エリアが狭くなります。)



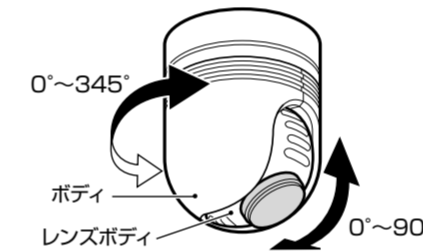
- 1.ボディはずしボタンを押し、ベースとボディを分離する。
- 2.ベースの通線穴に電線を通してベースを付属の取付用なベタピンネジ(3.5×20)(2本)で固定する。
注 露出配線する場合は、配線方向に合わせてノックアウト部をニッパーなどで切り取って配線してください。
- 3.結線する。(配線方法参照)
- 4.位置合わせマークを合わせてベースのツメにボディを引っ掛け、取り付ける。



注 配線の途中で電線接続する場合は、ハンダ付処理が圧着スリーブ処理を行い、その後テーピングで絶縁してください。
(電線をよじっただけでは、接触不足や、長期間使用中に電線表面が酸化し接触不良をおこし、誤作動や動作しないなどの原因となります。)

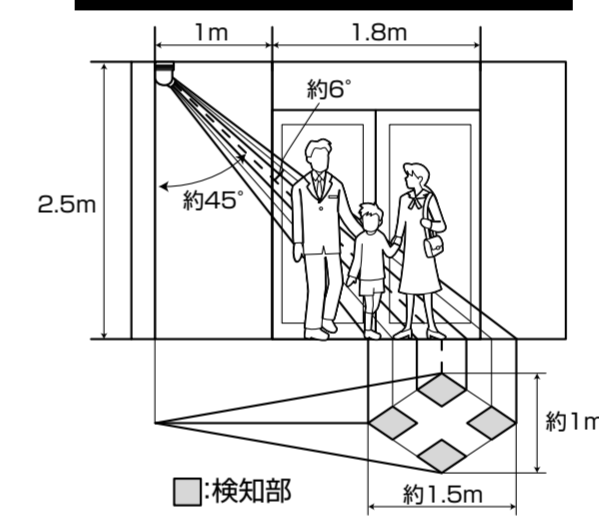


検知エリアの調整

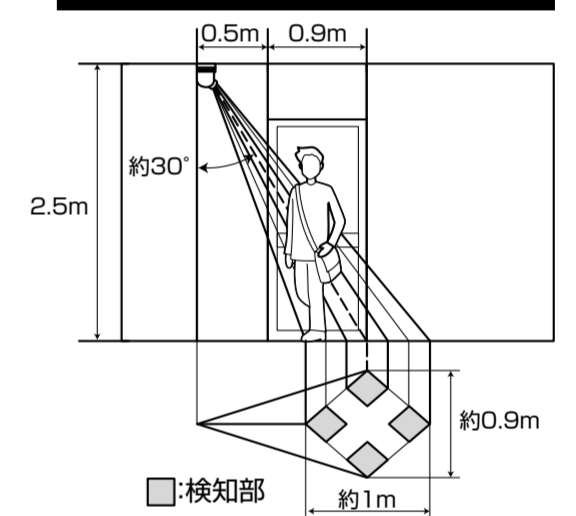


- レンズボディ(0°~90°可変)、ボディ(0°~345°可変)を回転させて調整できます。

【例1:レンズボディ角度約45°】



【例2:レンズボディ角度約30°】



異常時の点検

状態	点検	処置
全く動作しない	●店番本体の通電表示灯が消灯していませんか。	⇒ 店番本体のカバーをはずし、電源を入れる。または、電源コードがはずれていないか確認する。
	●店番本体の警報表示と報知表示がいずれも消灯していませんか。	⇒ 警報押ボタンもしくは、報知押ボタンを押す。
	●電源を入れてから1分以上経過していますか。	⇒ 約1分間待ってから、動作の確認を行う。
	●検知エリア内で止まったり、遅い動きや走るような速さで通過していませんか。	⇒ 人の動きなどの温度変化を検出していません。大きく動いたり、検知速度を確認する。
時々動作しない	●気温が暑すぎませんか。	⇒ 故障ではありません。夏場など気温が体温に近づいたときには、検知しにくくなります。
	●検知器の検知エリアに障害物はありませんか。	⇒ 障害物を取り除く。
	●検知器の検知エリア調整は適当ですか。	⇒ 人が検知エリア内のどこを通過しても検知するように検知エリアを再調整する。
	●検知器のレンズカバーがホコリや水滴で汚れていませんか。	⇒ やわらかい乾いた布でふき取る。(シンナー、ベンジン、殺虫剤などの化学薬品は商品の表面をいためますので使用しないでください。)
人が通らないのに動作する	●検知距離が4mを超えていますか。	⇒ 4m以内になるよう、施工し直す。
	●電源電圧が不安定になっていませんか。	⇒ 電源電圧を適正にする。
	●検知エリア内で何か動くものがあったり、急激な温度変化が起こっていませんか。	⇒ 原因となるものを取り除く。窓の開閉時の温度差により動作することがあります。
	●電氣的雑音(放送局、各種無線局など)の発生源が近くにありませんか。	⇒ 取付場所を変更する。
検知器の動作表示灯は赤色点灯するが、接続機器が動作しない	●太陽光の強い反射、ヘッドライトなどの光が当たっていませんか。	⇒ 取付場所を変更する。または、ブラインドなどで遮光する。
	●検知エリア外を通過している人などを検知していませんか。	⇒ 検知エリアを再調整する。4m以上でも検知する場合があります。
	●検知エリアに加湿器などの蒸気がかかっていますか。	⇒ 蒸気が検知エリア内にかからないよう加湿器などを移動する。
	●接続機器への配線が断線または短絡していませんか。	⇒ 配線の断線または短絡を直す。
	●端子のゆるみはありませんか。	⇒ ゆるんだ端子を締め直す。